

# 士別市まちづくり懇談会(市内5会場)における 意見交換の結果 \* 要約

## ①朝日地区

11月17日(月)午後6時～ あさひサンライズホール (参加者:16名)

---

### 【意見・質問】①

- 「地域力」の定義について: 計画にある「地域力」という言葉が曖昧に感じる。「地域力により幸せを実感する」とあるが、具体的にどういうことかを説明してほしい。
- 施設統廃合の進め方について: あさひサンライズホール、あさひスキー場、朝日プールなどの統廃合・廃止案について、行政が決めたことを市民に下ろしているように感じる。地域力を高めるなら、決定前に市民への説明や合意形成が必要と考える。
- 森林整備について: 上士別地区などの伐採が進んでいるが、伐採後の「育林(植林)」状況は。
- 観光資源(天塩岳)について: 羊と雲の丘の取り組みはあるが、市長政策に掲げられていた「天塩岳」の活用が記載されていない。合併して士別市の一部となったが、天塩岳、観光の整備は。

### 【市側の回答】

- 地域力について: 行政だけでなく、農林商工業、地域コミュニティ、企業など、まちの全体が連携して取り組む力を指します。
- 施設の方針について: 説明は決定事項ではなく、「提案」です。人口減少、老朽化、財政状況を踏まえ、「この時期にこうなる可能性がある」という説明を行い、市民と在り方を議論して決めたい考えです。
- 森林について: 森林整備計画に基づき整備を実施しています。現在は民間の製材工場が中心ですが、地域おこし協力隊などを活用し、労働力を確保して植林・育林のサイクルを回していきます。
- 天塩岳について: 個別名称は記載していないが、実行計画に整備を位置付け、全体的な観光振興の中で、登山道整備やヒュッテ管理などを含め、重要な地域資源として活用していく方針です。

### 【意見・質問】②

- 人口減少を前提とした計画への疑問: 30年後に人口8,000人になるという推計を前提に、職員や施設を減らす「ダウンサイズ」の提案ばかり。人口減少を食い止める、あるいは収入を増

やすといった前向きな具体的政策がない。

- **施設統廃合とアクセス問題**：朝日地区から士別市街地までは(遠い場所で)40km ある。施設を統廃合して市街地に集約した場合、移動手段(足)のない高齢者などはどうすればよいのか。
- **図書館の削減(除籍)について**：「人口規模に合わせて蔵書数を減らす(除籍する)」という考え方はおかしい。図書館の価値は蔵書の多さや質にあり、人口が減ったからといって本を捨てる論理は納得できない。
- **文化・芸術の重視**：サンライズホールで行われてきた文化事業(演劇等)は評価されるべき。文化の灯を消さないでほしい。

#### 【市側の回答】

- **人口と財政**：人口減少による地方交付税の減額は現実であり、財政破綻を避けるためには身の丈に合った財政運営(ダウンサイズ)が必要である。職員数も類似団体と比較して適正化しなければなりません」。
- **アクセス**：距離の壁は認識しており、地域公共交通の維持・確保に取り組む考えです。
- **図書館について**：「人口が減ったから本を減らす」という説明が誤解を招いたかもしれない。あくまで適正規模の目安としての数字ですが、ご指摘の通り「知の拠点」としての機能は維持すべきであり、一律に減らすという考えは見直す余地があります。
- **図書館の除籍について**：意図的に廃棄するわけではなく、古い情報の更新やスペース確保のための新陳代謝(除籍)は必要です。ただし、「人口比率で減らす」というロジックについては、ご意見を踏まえ再考したい考えです。

#### 【意見・質問】③

- **「合宿の里」の対象について**：市はスポーツ合宿に力を入れているが、吹奏楽や演劇などの「文化系合宿」も可能性がある。
- **宿泊施設の競合問題**：文化系の団体(大学のサークル等)が夏休みや冬休みに合宿を希望しても、その時期はスポーツ合宿で市内の宿泊施設が満室のため断らざるを得ない。結果、ホールが空いていても使われない状況がある。
- **使用料減免の壁**：「市内に宿泊した場合のみホール使用料を減免する」という規定があるため、市内の宿が取れずに近隣(名寄や下川)に泊まると、ホール代が高額になり利用してもらえない。
- **提案**：市内の宿が満杯でやむを得ず市外に泊まる場合でも減免を適用するなど、柔軟な運用ができないか。また、スポーツだけでなく文化合宿の誘致も強化してほしい。

#### 【市側の回答】

- **現状認識**：スポーツ合宿(ジャンプ、クロカン等)が経済効果等の面で優先されてきた経緯は

あります。宿泊施設のキャパシティが拡大の制約になっていることも認識しています。

- **減免などについて：** 貴重なご意見として承ります。稼働率を上げ、交流人口を増やすためにも、市外宿泊時の減免適用など、運用の見直しや柔軟な対応を検討します。

#### 【意見】④

- **宿泊施設の老朽化：** 合宿を受け入れる宿泊施設自体の老朽化が進んでいる。
- **高齢化と担い手不足：** 除雪など地域を支える業務の担い手が高齢化しており、後継者不足が深刻。
- **文化とスポーツの優先順位(補足)：** スキー場や宿泊施設側としては、経済効果や長年の付き合いから、どうしてもスポーツ合宿(アルペン等のポール練習)を優先して予約を入れてしまう実情がある。文化系を軽視しているわけではないが、経営上の判断による側面がある。

#### 【意見・質問】⑤

- **説明と周知の方法：** こうした懇談会は重要だが、資料や広報紙だけでは市民に伝わらない。もっと対話の場や分かりやすい周知が必要。
- **スキー場のリフト問題：** リフトは設置から40年以上経過し、老朽化で危険な状態。更新には数億円かかる。「廃止ありき」ではなく、安全性を最優先にしつつも、例えば「土日限定営業」や「民間活力の導入」など、延命や形を変えた存続の可能性を模索できないか。いきなり「ゼロ(廃止)」にするのではなく、着地点を探りたい。
- **観光・天塩岳：** 天塩岳は重要な資源。登山道のトイレ整備など、最低限のインフラ整備は必要。
- **合宿のキャパシティ：** 以前は240名ほど受け入れられたが、現在は減少している。民泊の活用や既存施設の改修でキャパシティを確保すべき。
- **朝日プールの廃止について：** 老朽化が著しく、維持費もかかるため廃止やむなしという方向性は理解するが、代替案(水遊び場など)の検討も必要ではないか。

#### 【市側の回答】

- **周知について：** 市民との対話が不足していることは反省しなければなりません。今後も膝を突き合わせた議論の場を設ける考えです。
- **スキー場・プールについて：** 最大の理由は「安全性」の確保です。事故が起きてからでは遅いこと、財政難だけが理由ではありません。ただし、直ちに全面廃止とするのではなく、ご提案のような「運営方法の工夫(営業日短縮等)」や「地元による運営」などの可能性については、地域の方々と協議を継続したい考えです。
- **天塩岳・観光：** 観光振興計画の中で、既存資源の磨き上げを行います。

#### 【意見】⑥

- **地域のマンパワー不足**：除雪や草刈りなど、地域の維持管理を行う人材が圧倒的に不足している。ボランティア頼みも限界がきている。
- **若者の定住**：若者が戻ってきても、働く場所や住む場所（市営住宅等）の整備が不十分だと定住できない。

#### ◆ 全体を通じた市側のまとめ

- **計画の位置づけ**：今回示したのは行政からの「提案」であり、決定事項ではありません。いただいたご意見（図書、合宿、スキー場など）を持ち帰り、計画案の修正や運用、取り組みの改善に活用いたします。
- **今後の進め方**：厳しい現実（人口減少や財政状況）は直視しつつも、単に減らすだけでなく、知恵を出して「持続可能なまちづくり」を進めるため、引き続き市民との対話を重ねていきます。

## ②温根別地区

11月18日(火)午後1時30分～ 温根別出張所（参加者：7名）

---

#### 【意見・質問】①

- **温根別小学校 閉校後の施設維持**：来年3月で温根別小学校が閉校になる。8月の説明会で「校舎を残して活用してほしい」と要望したが、来年度の予算に施設の維持管理費（特に除雪費など）は計上されているのか。放置して廃墟のようにならないか心配している。

#### 【市側の回答】

- **内容**：閉校後、直ちに機能を別の施設へ転用することは現状難しい状況です。まずは既存施設の管理が必要となります。建物が劣化しないよう、来年度予算に最低限の維持管理費（除雪費等含む）を計上する方向で進めています。今後の利活用については引き続き協議いたします。

#### 【意見・質問】②

- **通学手段（スクールバス等）**：小学校統合に伴い、子供たちが士別市街へ通うことになる。児童数も減っている中、親としては通学の安全性が最大の懸念事項である。スクールバスやタクシーなど、親が安心して送り出せる輸送体制を確保してほしい。

#### 【市側の回答】

- **内容:** 先日(11月6日)PTAと協議を行い、乗車場所や時間等の具体的な確認を行いました。「安全第一」を最優先とし、バスやタクシーを効率的に活用しながら、保護者が安心できるように引き続き綿密に連携・対応していきます。

#### 【意見・質問】③

- 「憩いの広場」周辺の環境整備(草刈り・伐採): 「憩いの広場」周辺(橋のたもと、旧 憩いの広場パークゴルフ場付近)に雑草やアカシアの木が繁茂している。また、周辺は市有地と民有地が混在しているが視界が悪く、市有地部分だけでも市で草刈りや雑木を伐採してほしい。

#### 【市側の回答】

- **内容:** ご指摘の場所は把握しています。民有地との境界等の権利関係を確認した上で、担当課として対応できることを検討し回答いたします。春の雪解け後に、現地を確認いたします。

## ③中央地区

11月18日(火)午後6時～ 市民文化センター (参加者:17名)

---

#### 【意見・質問】①

- **財政の裏付け:** 将来人口の減少や厳しい財政状況は理解するが、計画の中に「財源」の話が出てこない。素晴らしい計画(キャンパス)を描いても、それを実行するための財源確保や行財政改革の具体的な裏付けが必要ではないか。
- **人口ビジョンと病院:** 土別市と名寄市の人口動態や病院の状況を比較すると、土別は減少している。両市が競合するのではなく、上川北部(和寒から中川まで)全体をカバーする「基幹病院」を、例えば多寄や風連のような中間に建設し、既存の病院は診療所化するといった広域的な視点が必要ではないか。

#### 【市側の回答】

- **財政計画:** 事業ごとの積算は行っており、総合計画とあわせて「行財政運営方針」を作成しています。総合計画の付属資料としてパブリックコメント時などに提示する予定です。
- **広域医療・病院:** センター病院(名寄)と慢性期(土別・名寄東病院)という役割分担の中で、土別と名寄で「連携推進法人」を立ち上げ、薬剤の共同購入などで単価を下げるなどの連携を進めています。上川北部全体での医療体制は協議会等で情報交換を進めています。

#### 【意見・質問】②

- **天塩川パークゴルフ場：**パークゴルフ場は無料の施設であり、多くの高齢者が健康維持のために利用しており、生きがいになっている。廃止は「利用者の夢を砕く」ことになり反対。
- **利用状況：**無料・低額で利用できるため利用者が非常に多い。これを廃止するのは市民サービスの低下であり、納得できない。
- **負担への意欲：**維持管理費がかかるなら、協会等で負担してでも存続してほしいと声がある。

#### 【市側の回答】

- **方針について：**当初は廃止・集約を提案していたが、パブリックコメントや懇談会で多くの存続要望（署名含む）を受けています。例えば、市内全体でコース規模の縮小（18ホール減など）や、管理方法の見直しなどを含め、関係団体と改めて協議の場を設けることを検討いたします。

#### 【意見・質問】③

- **公衆浴場「ぷらっと」：**自宅に風呂がない人や高齢者にとって公衆衛生上の役割がある。移動手段がない高齢者には、風呂へ通うことは厳しい。

#### 【市側の回答】

- **廃止の理由：**建設から年数が経過し、ボイラーやろ過機の大規模改修に億単位の費用がかかります。また、年間800万円程度の赤字があります。現在は家庭風呂の普及率が高く、「公衆衛生」としての役割は薄れています（民間銭湯廃業時に施設を存続させた本来の目的は達成された）。限られた財源の中で、少数の利用者のために多額の公費を投入し続けるのは困難であり、廃止を提案しています。

#### 【意見・質問】④

- **朝日サンライズホール統合への反対：**市民文化センター大ホールの統合が提案されているが、文化拠点として重要な施設。ホールの音響やステージの広さはサンライズホールの方が優れている点もあるかもしれないが、単純な規模比較（席数）だけで統合するのはおかしい。大ホールの稼働率は低いが、地域にとって必要な施設。

#### 【市側の回答】

- **統合の方向性：**将来的な人口規模や維持管理コストを考慮し、機能を集約する方向で検討しています。

#### 【意見・質問】⑤

- **農業構造転換支援事業：**JA北ひびき管内での施設整備について、具体的な内容と規模、

市の負担額などは？

- **上下水道(中士別・朝日地区)**：中士別地区の下水道は利用者が減っているため、管路維持より合併浄化槽への転換の方が安上がりでは。朝日地区の上水道は雨の影響を受けやすいため、上士別からの送水(統合)ができないか。
- **バス路線・交通**：博物館や病院など、主要施設へのバス路線網(アクセス)が悪く、施設があっても行けない。施設設置にあたっては交通と連携した整備検討が必要。

#### 【市側の回答】

- **農業施設**：低温貯蔵施設やライスセンターなど、老朽化した施設の再編(機能増強)や効率化に向けた整備を行う3ヶ年計画です。総事業費は約60億円(半額は国の補助)。市は地元負担分の一部を支援する考えです。
- **上下水道**：中士別地区の下水道は更新時期を迎えており、コスト比較の結果、合併浄化槽+維持管理の方が安価であるため、切り替えを検討しています。朝日の上水道も、上士別の浄水場からの統合を検討しています。
- **交通**：コンパクトシティの推進に向けて、公共交通網の最適化も課題と認識しています。

#### 【意見・質問】⑥

- **「命のバトン」事業**：高齢者の医療情報を冷蔵庫に入れる事業は現在どうなっているのか？
- **地域担当職員制度**：以前あった地域担当職員制度がなくなり、職員が地域に出向く機会が減ったのではないか。

#### 【市側の回答】

- **命のバトン**：現在も制度は継続しています。対象年齢(75歳以上など)の要件をなくし、希望者には本庁舎の7番窓口でバトンを配布しています。ケアマネージャー等を通じてハイリスク者への対応も行っています。
- **地域担当職員制度**：全戸訪問・高齢者実態調査は廃止しましたが、現在は民生委員・福祉部門と連携し、支援が必要な方へのアプローチに重点を置いています。

#### 【意見・質問】⑦

- **公共施設の最適化に対する進め方への不満**：「財政が厳しいから廃止」という結論ありきで、トップダウンで進められているように感じる。もっと早い段階から市民と膝を突き合わせて議論すべき。
- **説明の一貫性**：パークゴルフ場など、一度「廃止」と言ったり、要望を受けて「存続」と言ったり、方針が二転三転して混乱する。
- **要望書の扱い**：各団体から出された要望書に対し、ゼロ回答ではなく、歩み寄りや具体的な

対話をしてほしい。

**【市側の回答】**

- **プロセスの意図**：決してトップダウンで決めているわけではありません。まずは財政状況を踏まえた「素案(厳しい内容・実態)」を提示し、それに対して市民の皆さんの反応やご意見(パブコメや懇談会)を受けて、修正・判断するというプロセスをとっています。
- **柔軟な対応**：実際に、パークゴルフ場のように市民の強い要望や代替案(負担増の容認など)が示されたものについては、案の変更を検討しています。
- **今後の対話**：頂いたご意見を受け止め、必要な修正を行いながら、最終的な計画を策定していきます。行政からの提案・説明を一方的に通すものではなく、対話を通じて納得解を探っていきます。

## ④上士別地区

11月19日(火)午後1時30分～ 上士別出張所 (参加者:3名)

---

**【意見・質問】①**

- **JR 士別駅前の水たまり**：士別駅の向かい側(ハイヤー乗り場付近)において、道路のアスファルトが排水溝よりも低くなっているため、雨が降ると水たまりが発生する。アスファルトを嵩上げて水はけを良くしてほしい。
- **排水溝について**：上士別町の道々裏通りの用水路の柵が老朽化している。予算があれば対応いただきたい。

**【市側の回答】**

- **所有区分と現地確認**：ご指摘の場所は JR の敷地か市道である可能性があるため、まずは土地の所有区分を調査して、対応策を検討いたします。
- **排水溝**：上士別出張所にて現地を確認し、どのような対応が可能か検討いたします。

**【意見・質問】②**

- **総合戦略のスローガン**：これまでの「創造」から「共創(きょうそう)」へと変化しているが、これは士別市のまちづくりを「共に創る」(進める)という意味でよいか。
- **人口ビジョン**：国の推計よりも、市がブレーキをかけて人口減少を食い止めようとしている姿勢について確認したい。

- **公衆浴場(ぷらっと)の廃止**: 独居老人など、自宅にお風呂がない人にとっては銭湯が必要であることは理解しているが、維持費がかかるのも事実。バスでの送迎や「道の駅」の活用など、代替案が必要ではないか。無くすのは反対ではないが、高齢者への配慮も必要だと思う。

**【市側の回答】**

- **総合戦略の「共創」**: これまでは行政主導の側面が強かったが、これからは市民、企業、市外からの関係人口、行政が「お互いに協力し合って(共に)」まちづくりを進めるという意味で掲げました。関係する全ての方が連携して街づくりを進めることで、相乗効果を狙う強い思いを込めています。
- **人口目標**: 何もしなければ 2050 年には 8,012 人になると推計されていますが、子育て支援や移住促進などの施策を行うことで、8,600 人程度を維持したいという目標(意思)を持っています。
- **プラット(公衆浴場)について**: かつてのような「公衆衛生(自宅に風呂がない人のため)」という役割は薄れており、現在は自宅に入浴設備がある家庭がほとんどです。年間約 800 万円の赤字が出ており、市立病院など他の重要課題がある中で、優先順位をつける必要があります。

**【意見・質問】③**

- **教育の充実について**: 市の方針にある「教育の充実」には大賛成である。市内でも児童数が減っており、学校の規模も縮小している。10 年後、20 年後の子供たちの数が激減していく将来を見据えた教育施策や学校のあり方を検討してほしい。

**【市側の回答】**

- 貴重なご意見として承り、今後の計画や施策に反映させていただきます。

## ⑤多寄地区

11 月 19 日(水)午後6時～ 多寄構造改善センター (参加者:17名)

---

**【意見・質問】①**

- **市の将来像**: 人口減少を前提に古い施設を見直す(廃止・統合する)ことは理解できる。しかし、施設を減らした後に「どういう土別市になるのか(目指す姿)」が見えてこない。単に「お金がないから減らす」という話に聞こえ、25 年後、30 年後の明るい未来図が提示されていないため不安しか残らない。

- **公共交通**: 例えば朝日地区(サンライズホール)へ機能を統合する場合、高齢者が運転免許を返納していく中で、どのように移動するのか。バスは空気を運んでいるような状態で、本数も少ない。土別が「自動車試験のまち」と言うのであれば、市として自動運転バスの実証実験を行うなど、具体的な公共交通の確保策(住民の足)をセットで提案すべき。

#### 【市側の回答】

- **計画の具体性について**: 第2次総合計画では「目指す姿」を実現するために、35の基本施策と169の具体的事業(事務事業)を設定しており、これらを着実に実行することで、将来に向けたまちづくりを進めます。
- **公共交通について**: 高齢化に伴う移動手段の確保は最大の課題と認識しています。現在のデマンド交通やバス路線網が十分に機能していない(空気を運んでいる)現状も把握しており、抜本的な見直しが必要と考えています。
- **自動運転について**: 市内には自動車等試験企業のテストコースがあり、各企業と連携してまちづくりを進めています。現在はメーカー側の開発段階(レベル4の無人運転はまだ技術的に困難な段階)だが、将来的には寒冷地での自動運転技術を確立し、それを市民の移動手段として実装できるよう誘致・連携を進めてまいります。

#### 【意見・質問】②

- **施設の廃止時期**: 資料にある「つくもスケートリンク」や「天塩川パークゴルフ場」について、「継続協議」や「見直し」とあるが、記載されている「令和9年(2027年)3月廃止」というのは決定事項なのか。協議中としながらも、廃止ありきで進んでいるように見える。

#### 【市側の回答】

- **決定までのプロセス**: 行政としての提案は「令和9年3月末での廃止」ですが、現在、利用団体や協会から「存続してほしい」「時期を延ばしてほしい」という要望を受けています。そのため、協議を継続している状況です。したがって、現時点で方針を「決定」したわけではありませんが、市としては利用者の減少や財政難を鑑み、提案通りのスケジュールで廃止・統合を進めたいという考えです。
- **てしおがわパークゴルフ場**: 市内で複数のコースを維持するのは困難であり、不動大橋・剣淵川ホールを残し、天塩川河川敷のコースを廃止する方向で提案したものです。

#### 【意見・質問】③

- **市の財政**: 財政が厳しいと言うが、土別市はかつて財政再建団体に転落してから立ち直った歴史がある。現状はそこまで危機的なのか。

#### 【市側の回答】

- **財政状況**: 直ちに財政破綻する状況ではないが、将来的に全ての公共施設を維持・修繕していくコスト(維持管理や施設の更新費用)を考えると、今のままでは財政が持たなくなります。「全ての施設を維持すると財政破綻する」というシミュレーションに基づき、予防的に施設の総量縮小(ダウンサイジング)を進める必要があります。

#### 【意見・質問】④

- **市の職員数**: 職員の数は適正なのか。人口規模に対して職員数が多いのではないか(人口50人に対して職員1人計算の他自治体に比べ、士別は多い印象がある)。

#### 【市側の回答】

- **現状**: 10月末時点で正規職員は約305名、会計年度任用職員を含めると約585名。職員が多い理由は、合併により行政面積が広大であること、本庁舎・支所・出張所など分散した施設を維持管理する必要があることなどから、同規模の自治体に比べて職員比率は高くなっています(人口千人あたりの職員数が多い)。
- **今後の方針**: 職員の急激な削減は行政サービスの低下を招くためできないが、定年退職者の不補充や採用抑制などを通じて、人口規模に見合った職員数へ段階的にスリム化していく方針です。

#### 【意見・質問】⑤

- **「総合型スポーツクラブ」**: 「総合型地域スポーツクラブ推進事業」の見直しについて、予算削減の話が出ているが、これらのクラブは単なるスポーツ活動でなく、人口減少地域における「まちづくり」「コミュニティ維持」の核として機能しているもの。
- **団体の存続に向けて**: 「予算がないから減らす」「効率化のために統合する」という論理だけで補助金を削減されると、ギリギリで運営している地域の任意団体は存続できなくなる。
- **事務局の負担**: 事務局員の負担も増しており、これ以上負担が増えれば組織が崩壊し、地域のコミュニティそのものが失われる。金銭的な効率性だけでなく、活動の質や地域への貢献度を考慮した支援のあり方を考えてほしい。

#### 【市側の回答】

- **「総合型スポーツクラブ」**: 各地域のスポーツクラブが果たしている役割の大きさは十分に認識しています。
- **補助金の検討**: 現在、補助金のあり方(単なる補助や業務委託など)を含めて検討している段階です。
- **協議の進め方**: 一律に予算をカットするのではなく、事務局の負担軽減やより使いやすい仕組みへの転換も含めて協議していきます。ただし、人口減少と財政状況を鑑み、現状のまま全て

の支援を継続することは難しいため、何らかの見直し(最適化)は避けられないという点で理解を求めたい考えです。